

## 全国看護系大学を対象とした初年次教育の実態

### Education provided in the first year of study in nursing universities throughout Japan

富樫 千秋・市原 真穂・吉野 由美子・岩瀬 靖子  
原 美弥子・池邊 敏子

Chiaki TOGASHI-ARAKAWA, Maho ICHIHARA, Yumiko YOSHINO,  
Seiko IWASE, Miyako HARA and Toshiko IKEBE

#### 要旨

本研究の目的は、現在、全国の看護系大学で行われている初年次教育の内容ならびに、その効果の測定方法を明らかにすることである。平成30年1月に看護系大学271校の学部長（あるいは学科長）を対象に質問紙調査をおこなった。その結果、95校から調査票の回答があった。回収率は35.1%であった。調査に回答した95校中82校（86.3%）が初年次教育をおこなっており、82校中53校（65.4%）で、看護系学部が初年次教育を担っていることが明らかになった。初年次教育の内容として多い順に、「課題に対するレポート」、「グループ学習」、「図書館の使い方」であった。初年次教育の効果測定方法は多い順に、「授業評価を基におこなっている」、「学生が自ら記入する成長を促す振り返りシートやポートフォリオを基におこなっている」、「学生の成績を基におこなっている」であった。初年次教育の基本スタンスとして、82校中37校（45.7%）が、「自学部の教育についていける水準まで引き上げることができなくても、すべての新入生の面倒をみる（水準をある程度犠牲にしても脱落者をださないことを重視する）」であった。リメディアル教育を行っている科目は、多い順に「基礎生物・生物」「基礎化学・化学」「英語」であった。

#### I. はじめに

2000年以降、少子化の影響を受けて大学全入時代を迎えた。このような背景の中、2018年には全国の看護系大学は276大学となった。毎年の入学生には、「看護職」としての自己の将来像や、「看護師になる」という目的意識をもつ者が多い<sup>1)</sup>。しかし、一方で大学全入時代といわれ、同世代の半数以上が大学に進学する通過儀礼の中では、入学動機は、「看護師になる」と明確化されても、学習習慣の身につけていない学生が入学しているこ

とも否めない。

中央教育審議会は「学士課程教育の構築に向けて」<sup>2)</sup>において、初年次教育の必要性を提言した。そしてその位置づけを「高等学校から他大学からの円滑な移行を図り、学習および人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主に新入生を対象に総合的に作られた教育プログラム」あるいは「初年次学生が大学生になることを支援するプログラム」とした。

看護系の教育課程を有する大学は、我が国の大学の3校に1校あるという現状を鑑みると、看護系大学における初年次教育の充実は、当該学部・学科のみならずわが国の大学教育に及ぼす影響の大きいことが考えられる。

全国的に、初年次教育が広がる経緯の中生じる課題のひとつは、その教育が、学生の学びにどのような影響を及ぼしているか、また、方略として効果があるかという

連絡先：富樫千秋 ctogashi@cis.ac.jp

千葉科学大学看護学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Nursing, Chiba Institute of Science

(2018年10月02日受付, 2018年12月26日受理)

評価である。

評価方法は、授業評価アンケート、学生調査等があげられ、そのいずれもが学生の視点のみによる評価であることが明らかになっている。

しかしながら、初年次教育を多様な視点で評価している研究は少ない。成田<sup>3)</sup>は、多くの大学では、学生の活動やエビデンスを記録した「ポートフォリオ」による評価を用いているが、松下<sup>4)</sup>は「パフォーマンス評価」をもう一つの評価方法として、大学教育の中で取り組むべき「次の課題」を明示している、としている。多様な視点で初年次教育を評価し、その内容を吟味していくことは全国のいずれの大学でも喫緊の課題である。

本研究では、現在、全国の看護系大学で行われている初年次教育の内容ならびに、その効果の測定方法を明らかにすることを目的とする。

## II. 用語の定義

本研究では初年次教育を次のように定義する。初年次教育とは「大学の教育環境への適応のための取り組み」のことを指す、「専門教育への導入」については対象としない。具体的には以下の8点を目的とした大学1年生に対する教育を初年次教育と定義する。この定義は、2008年に河合塾が全国の国公立私立大学を対象におこなった「全国大学の2008年度初年次教育調査」<sup>5)</sup>の定義を参考にした。

- ① 学生生活や学習環境などの自己管理能力をつくる
- ② 高校までの不足分を補習する
- ③ 大学という場を理解する
- ④ 人として守るべき規範を理解する
- ⑤ 大学の中に人間関係を構築する
- ⑥ レポートの書き方、文献検索の方法など、大学で学ぶためのスタディスキルやアカデミックスキルを獲得する
- ⑦ クリティカルシンキング・コミュニケーション力など大学で学ぶための思考方法を身につける
- ⑧ 高校までの受動的な学習から、能動的で自立的、自律的な学習態度への転換を図る

## III. 方法

### 3. 1 調査対象

全国の看護系大学276校の看護学部長に依頼した。

### 3. 2 調査方法

看護学部長宛に研究協力依頼の文書・質問紙を送付した。

研究参加の同意が得られた研究対象者のみが無記名で質問に回答後、添付している返信用封筒に質問紙を同封し、個別に投函する方法で回収した。

### 3. 3 調査内容および分析方法

以下⑦以外の質問については選択肢を設定し、回答する形とした。⑦については自由記述とした。

- ① 学部の情報について
- ② 初年次教育を行っているか
- ③ 初年次教育を担っている部署
- ④ 初年次教育の設定
- ⑤ 初年次教育の内容
- ⑥ 初年次教育の効果測定
- ⑦ 効果のある初年次教育の内容
- ⑧ 初年次教育では「新生を自学部の教育についていける水準に引き上げる」ことが目標と考えられているが、もし目標水準にまで達しない学生がいた場合の基本スタンスについて
- ⑨ リメディアル教育の科目

分析は、①～⑥および⑧、⑨は記述統計量を算出した。⑦は、自由記載の内容を簡略化した表現に置き換えてコードとし、前述の「II. 用語の定義」で示した、初年次教育の定義を基に分類、整理した。なお、一文に複数の内容が含まれる場合には、意味内容を損なわないように1コードが1つの意味内容となるように調整した。分析の真実性、信憑性、移転性等の確保のために研究者間で合意を得ながら行なった。

### 3. 4 倫理的配慮

千葉科学大学倫理倫理審査委員会の承認を得て実施した（受付番号29-14、承認日平成29年11月29日）。研究対象者には、研究の趣旨、プライバシーの保護の匿名性の確保、研究協力中断の保証、データの管理方法を文書で説明した。同意のある研究対象者のみ、回答するかたちで実施した。質問紙の回答・投函をもって研究協力に同意したとみなした。

## IV. 結果

平成30年1月に看護系大学276校を対象にし、調査票を配布したところ、「あて所に尋ねあたりません」4通、「現在建築途中による、配達できないため一旦お返しさせていただきます」1通、計5通の調査票がもどってきたため、最終的には271校に調査票を配布した。95校から調査票の回答があった。回収率は35.1%であった。回答のあった大学の1年生定員の平均は88.6 ± 24.5名、学部名は看護学部が44校、保健医療学部が6校、看護福祉学部が1校、その他が43校、無回答1校であった。開設年度は平均2004.2 ± 9.5年であった。大学の種類は、総合大学が59校、単科大学が25校、その他が9校、無回答2校であった。初年次教育を「おこなっている」82校、「おこなっていない」12校、「わからない」1校、無回答1校であった。

#### 4. 1 初年次教育をおこなっている看護系大学の状況

初年次教育をおこなっている82校の状況は表1に示した。

「初年次教育を担っているのはどこか」という質問に対して、「看護系学部が担っている」と回答した者が53名(65.4%)、「教育系学部が担っている」と回答した者が3名(3.7%)、その他31名(38.3%)であった。

「初年次教育の設定」を問う質問に対して、「必修科目である」と答えた者が73名(90.1%)、「選択科目である」と答えた者が7名(8.6%)、「時間外におこなっている」と答えた者が10名、「その他」と回答した者が3名(3.7%)であった。

「初年次教育の内容」を問う質問に対して、「日本語表現としてのレポートの書き方」と回答した者が58名(71.6%)、「アカデミックスキルとしてのレポートの書き方」と回答した者が63名(77.8%)、「図書館の使い方」と回答した者が65名(80.2%)、「グループ学習」と回答した者が67名(82.7%)、「ディベート」と回答した者が23名(28.4%)、「フィールドワーク」と回答した者が19名(23.5%)、「プレゼンテーション」と回答した者が61名(75.3%)、「課題に対するレポート提出」と回答した者が68名(84.0%)、「ふり返しシート(学習の記録・ポートフォリオなど)」と回答した者が40名(49.0%)、「その他」と回答した者が27名(33.3%)であった。

「初年次教育の効果測定方法」を問う質問に対して、「授業評価を基におこなっている」と回答した者が45名(55.6%)、「学生調査を基におこなっている」と回答した者が20名(24.7%)、「学生の成績を基に行っている」と回答した者が29名(35.8%)、「教員が記入する個々の学生カルテまたは類似のものを基におこなっている」と回答した者が7名(8.6%)、「学生が自ら記入する、成長を促す振り返りシートやポートフォリオを基におこなっている」と回答した者が3名(3.7%)、「その他」と回答した者が11名(13.6%)、「おこなっていない」と回答した者が6名(7.4%)であった。

「初年次教育のスタンス」を問う質問に対して、「自学部の教育についていける水準まで引き上げることができなくても、すべての新生生の面倒をみる(水準をある程度犠牲にしても脱落者をださないことを重視する)」と回答した者が37名(45.7%)、「自学部の教育についていける水準に達しない新生生はやむを得ないと考える(脱落者が出て水準を守るほうを重視する)」と回答した者が4名(4.9%)、「どちらを重視するともいえない」と回答した者が36名(44.4%)、「無回答」5名(6.2%)であった。

「リメディアル教育をおこなっている科目」を問う質問に対して、「数学ⅠA」と回答した者が14名

(17.3%)、「数学ⅡB」と回答した者が2名(2.5%)、「基礎物理・物理」と回答した者が13名(16.0%)、「基礎化学・化学」と回答した者が27名(33.3%)、「基礎生物・生物」と回答した者が35名(43.2%)、「英語」と回答した者が18名(22.2%)、「その他」と回答した者が16名(19.8%)であった。

#### 4. 2 初年次教育の内容で効果がある内容

「現在おこなっている初年次教育で効果がある内容」はどのような内容ですか」という自由記述を求める質問内容について記載があったのは、58名であった。「2018年4月開設のため答えられません」「まだ不明である」「効果を検証していないのでわかりません」「余り効果が出ていない」「現在のところ、時間外で行っているので出席率が悪く、明確な効果はなく科目や方策を検討しています」を除いた53名の自由記述内容を表2に示した。自由記述の分析の結果122コードが得られた。

【 】は初年次教育の定義による分類、「」には内容、<>はコードまたは、自由記載の例を示す。

【学生生活や学習環境などの自己管理能力をつくる】では、「学習環境の適応」<上級生による学習アドバイス>などの「人的な学習環境の整備」、学生や卒業生との交流による「大学生生活の意義や目標のイメージ化」「自己の将来像のイメージ化」であった。

【高校までの不足分の補習】では、<生理学に必要な化学、薬剤の希釈、点滴に必要な計算>など、「基礎知識」などであった。

【大学という場を理解する】では、<大学生になって課題が次から次に出て、『自分の意見を求められること』が多いという意見は学生から聞く>などの、「学生としての権利・義務・責任意識の自覚化」などであった。

【人として守るべき規範を理解する】【大学生生活の中で人間関係を構築する】は、コード数は多くなく、<学生間の関係を深める上級生との交流で、大学生生活の意義や目標をイメージする>など、他の内容と組み合わせた内容が含まれた。

【レポートの書き方、文献検索の方法など、大学で学ぶためのスタディスキル、アカデミックスキルを獲得する】は、「文献検索/図書館の利用」「情報リテラシー」「ディスカッションの能力」「ノートテイキング」「レポートの書き方」「プレゼンテーション能力」など、<図書館利用を積極的に推奨し、文献検索等の技法の向上につながった><文献批判/ルールの徹底理解(著作権を含め)>など、46件のコードがあった。

【大学で学ぶための思考方法を身につける】では、「コミュニケーション能力」「ロジカルシンキング・クリティカルシンキング」などであった。



【高校までの受動的な学習から、能動的で自立的、自律的な学習態度への転換を図る】では、＜課題別グループ学習による学内外でのアクティブラーニングをとおして、学生たちが困難な状況を他者との関わりによって切り拓きエンパワメントする姿が見られた＞＜学習成果のプレゼンテーションとディスカッションによって、主体的で対話的なアプローチ、成果の発信による課題の明確化と共有が進んだ＞といった内容と、その効果について記載したものや、＜フィードバック、高齢者のディサービスまたは子ども館に行かせているが、早くから他者と接すること、また世代の違う対象と接することに、人の思いや考えのちがいにふれ、学びになっていると思う＞など、「課題の明確化と共有、探究による問題解決」能力の醸成を目指し、大学が独自で取り組み効果があったユニークな取り組みを記載したものがあつた。

その他、＜ルーブリック評価を導入していることは、学生が学習する目標の明確化につながり、教員もその評価に応じて指導できる。導入や途中でのフィードバックが重要であり、学生が自分の学びや学び方を振り返ることができるような介入を意図している＞など、「学生と教員との学習目標・気づきの共有化」、「ルーブリックの活用」の効果を示唆したものがあつた。一方で、「効果については検討が必要」であるという指摘や、＜学習意欲が高まっているが、効果を数値で測るのはむずかしい＞など「効果の評価は困難」という記載もあつた。

## V. 考察

調査に回答した95校中82校（86.3%）が初年次教育をおこなっており、82校中53校（65.4%）で、看護系学部が初年次教育を担っていること、82校中73校（90.1%）で必修科目であることが明らかになった。ベネッセ教育研究所<sup>6)</sup>が2013年に全国の大学の学科長を対象におこなった調査によると、大学の授業を通して、「以前より学力が低くなっていること」が問題になっているとの回答が75.8%と7割以上が問題に感じていることが明らかになっている。学力の低下を背景に、初年次教育を実施している看護系学部が8割以上存在することが考えられた。

初年次教育の内容として多い順に、「課題に対するレポート」、「グループ学習」、「図書館の使い方」であつた。

また、前述の調査<sup>6)</sup>の結果、大学は、入学レディネスとしてどのような能力を必要としているかの質問で、その必要度について、「かなり必要である」と回答割合が高い項目が「根拠に基づいて判断する力」65.9%、「物事を論理的に考える力」65.5%、「自分の考えをわかりやすく話す力（口頭での表現力）」65.1%、「与えられた課題だけでなく主体的に学ぶ力」64.4%であつた。今回

の結果では、これらの必要な力を補完する内容が初年次教育の内容となっていることが考えられた。今回の調査対象とした看護系の大学では効果のある内容の自由記述には、「・課題別グループ学習による学内外でのアクティブラーニングをとおして、学生たちが困難な状況を他者との関わりによって切り拓きエンパワメントする姿が見られた。・学習成果のプレゼンテーションとディスカッションによって、主体的で対話的なアプローチ、成果の発信による課題の明確化と共有が進んだ。・図書館利用を積極的に推奨し、文献検索等の技法の向上につながった。」があり、大学生に必要な力を養うための初年次教育が効果を発揮できていることも伺われた。

初年次教育の効果測定方法で多い順に、「授業評価を基におこなっている」、「学生が自ら記入する成長を促す振り返りシートやポートフォリオを基におこなっている」、「学生の成績を基におこなっている」であつた。

初年次教育の評価を量的な結果だけでなく、質的なデータでも評価しており、多角的な視点での評価をしている大学があることが明らかになった。2009年に河合塾が全国の国公私立大学のすべての学部をおこなった初年次教育の調査では、ヒアリング調査をおこなっており、A～Cのそれぞれの評価をおき、三つの視点において評価された初年次教育をグッドプラクティスとしている、三つの視点はA「受動的な学びから能動的な学びへの転換、命題知の修得から実践知の修得への学び方の転換についての取り組みを評価」、B「学生の自律・自立化の促進についての取り組みを評価」、C「全学生に対する一定水準以上の初年次教育が保証されているかを測り評価」である。今後は評価の方法だけでなくその視点もあわせて、評価方法を明確にしていき、それぞれの大学が実情に応じて初年次教育を実施していくことが必要だと考える。

初年次教育の基本スタンスとして、82校中37校（45.7%）が、「自学部の教育についていける水準まで引き上げることができなくても、すべての新入生の面倒をみる（水準をある程度犠牲にしても脱落者をださないことを重視する）」であつた。先の全国調査<sup>6)</sup>で大学に必要な入学者レディネスは、「与えられた課題だけでなく、主体的に学ぶ力」が必要度64.4%に対して、身に付き度合いが43.6%と、最もギャップが大きいことが明らかになっており、今回の調査結果でもこの「主体的に学ぶ力」の身に付き度合いが影響してすべての新入生の面倒をみるが約半数だったのではないかと考える。

リメディアル教育を行っている科目は、多い順に「基礎生物・生物」「基礎化学・化学」「英語」であつた。先の調査<sup>6)</sup>によると、リメディアル教育実施学科の学科系統別リメディアル教育の実施教科は「医・薬・保健」学科では、「生物」が72.0%、「化学」63.7%、「物理」

56.5%であり、今回の調査の結果と「生物」「化学」の順位は同様であった。学科を含む「医・薬・保健」学科では入学後に解剖学・生理学・生化学の科目が必修科目となっており、これらの必修科目の基礎になる教科であることから大学入学後に補完する大学があることが伺える。

## VI. 結論

調査に回答した95校中82校（86.3%）が初年次教育を実施しており、82校中53校（65.4%）で、看護系学部が初年次教育を担っていること、82校中73校（90.1%）で必修科目であることが明らかになった。

初年次教育の内容として多い順に、「課題に対するレポート」、「グループ学習」、「図書館の使い方」であった。

初年次教育の効果測定方法で多い順に、「授業評価を基におこなっている」、「学生が自ら記入する成長を促す振り返りシートやポートフォリオを基におこなっている」、「学生の成績を基におこなっている」であった。

初年次教育の基本スタンスとして、82校中37校（45.7%）が、「自学部の教育についていける水準まで引き上げることができなくても、すべての新入生の面倒をみる（水準をある程度犠牲にしても脱落者をださないことを重視する）」であった。

リメディアル教育を行っている科目は、多い順に「基礎生物・生物」「基礎化学・化学」「英語」であった。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました全国の看護系大学の教員の皆様に厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) 野原真理, 遠藤由美子, 山崎智代他: 看護系大学における初年次教育の授業展開と学生の動機づけの実態. 医療保健学研究, 5, 141-157, 2014.
- 2) 中央教育審議会大学分科会: 学士課程教育の構築に向けて. 2013. [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2013/05/13/1212958\\_001.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/05/13/1212958_001.pdf) (参照2018-08-28).
- 3) 成田秀夫: 問題提起を受けて, 初年次教育でなぜ学生が成長するのか. 河合塾編, 東信堂, 東京, 265-268, 2015.
- 4) 松下佳代: パフォーマンス評価—子どもの思考と表現を評価する. 日本標準ブックレット, 東京, 2007.
- 5) 河合塾: 全国大学の2008年度初年次教育調査 [https://www.kawaijuku.jp/jp/research/unv/pdf/questionnaire\\_education.pdf](https://www.kawaijuku.jp/jp/research/unv/pdf/questionnaire_education.pdf) (参照2018-11-07).
- 6) ベネッセ教育総合研究所: 高大接続に関する調査. 2014. [https://berd.benesse.jp/up\\_images/research/2014\\_koudai\\_all.pdf](https://berd.benesse.jp/up_images/research/2014_koudai_all.pdf) (参照2018-09-19).

表1 初年次教育をおこなっている看護系大学の状況 (N=82) (複数回答)

設問	選択肢	n	%
初年次教育を担っているのはどこか	看護系学部が担っている	54	66.7
	教育系学部が担っている	3	3.7
	その他	31	38.3
初年次教育の設定	必修科目である	73	90.1
	選択科目である	7	8.6
	時間外に行っている	10	12.3
	その他	3	3.7
初年次教育の内容	日本語表現としてのレポートの書き方	58	71.6
	アカデミックスキルとしてのレポートの書き方	63	77.8
	図書館の使い方	65	80.2
	グループ学習	67	82.7
	ディベート	23	28.4
	フィールドワーク	19	23.5
	プレゼンテーション	61	75.3
	課題に対するレポート提出	68	84.0
	ふり返りシート (学習の記録・ポートフォリオなど)	40	49.4
	その他	27	33.3
初年次教育の効果測定方法	授業評価を基に行っている	45	55.6
	学生調査を基に行っている	20	24.7
	学生の成績を基に行っている	29	35.8
	教員が記入する個々の学生カルテまたは類似のものを基に行っている	7	8.6
	学生が自ら記入する、成長を促す「振り返りシート」や「ポートフォリオ」を基に行っている	30	37.0
	その他	11	13.6
	行っていない	6	7.4
初年次教育の基本スタンス	自学部の教育についていける水準にまで引き上げることができなくても、すべての新入生の面倒をみる (水準をある程度犠牲にしても脱落者を出さないことを重視する)	37	45.7
	自学部の教育についていける水準に達しない新入生はやむを得ないと考える (脱落者が出て水準を守るほうを重視する)	4	4.9
	どちらを重視するとはいえない	36	44.4
	無回答	4	4.9
リメディアル教育を行っている科目	数学ⅠA	14	17.3
	数学ⅡB	2	2.5
	基礎物理・物理	13	16.0
	基礎化学・化学	27	33.3
	基礎生物・生物	35	43.2
	英語	18	22.2
	その他	16	19.8

表2 現在おこなっている初年次教育で効果がある内容(自由記述) ( )内数字はコードの個数

初年次教育で効果がある内容	自由記載の例
	(代表的ものを抜粋 1つの文に複数の項目を含む場合には、該当箇所を太字下線で示した)
1. 学生生活や学習環境などの自己管理能力をつくる(11)	
学習環境への適応 人的な学習環境の整備 学習支援施設の利用促進 授業・試験の受け方 大学生生活の意義や目標のイメージ化 自己の将来像のイメージ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 学習環境への適応に効果がある。</li> <li>▪ 上級生による学習アドバイス</li> <li>▪ 学生指導室の話</li> <li>▪ 大学の授業と試験の受け方</li> <li>▪ 学生間の関係を深める上級生との交流で、大学生生活の意義や目標をイメージする</li> <li>▪ 卒業生との交流を行うことで、<u>将来の姿が具体的に</u>なったり、卒業したら、こういう道もあるのと視野が広がっていると思う。</li> </ul>
2. 高校までの不足分の補習(6)	
リメディアル教育 基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ リメディアル教育</li> <li>▪ <u>生理学に必要な化学(イオンや浸透圧)、薬剤の希釈、点滴に必要な計算、ガスボンベに関する計算</u>レポートの書き方以上について重点的に時間をかけることができる。</li> </ul>
算数 日本語教育 英語 外部試験の導入 読み、書きの能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 算数の課題</li> <li>▪ 日本語教育</li> <li>▪ 英語に関しては外部試験の結果により客観的に効果を観ている。</li> <li>▪ 基礎ゼミによる課題への取り組みとレポートの書き方の学習により、読み、書きの能力は、一定の能力として習得できるようになっている。</li> </ul>
3. 大学という場を理解する(10)	
大学で学ぶ意味の理解 学生としての権利・義務・責任意識の自覚化	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 大学で学ぶ意味の確認</li> <li>▪ 自主・自立的な学習姿勢の確立ー学生としての権利・義務・責任意識の自覚化</li> <li>▪ <u>大学生になって課題が次から次に出て、「自分の意見を求められること」が多いという意見は学生から聞く。</u></li> </ul>
4. 人として守るべき規範を理解する(1)	
マナー	マナー
5. 大学生生活の中で人間関係を構築する(5)	
人間関係の構築 上級生との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 人間関係の構築に効果がある。</li> <li>▪ <u>学生間の関係を深める上級生との交流</u>で、大学生生活の意義や目標をイメージする。</li> </ul>
6. レポートの書き方、文献検索の方法など、大学で学ぶためのスタディスキル、アカデミックスキルを獲得する(46)	
文献検索/図書館の利用 情報リテラシー ディスカッション能力 ノートテイキング アカデミックスキルとしてのレポートの書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 図書館利用を積極的に推奨し、文献検索等の技法の向上につながった。</li> <li>▪ PCスキルの向上</li> <li>▪ グループ学習の中でディスカッションする能力の向上</li> <li>▪ ノートのとり方</li> <li>▪ 文献批判/ルールの徹底理解(著作権を含め)</li> <li>▪ レポートの書き方が統一されるので各科目で同じ基準ができて指導しやすい。</li> <li>▪ プレゼンテーション能力の向上</li> <li>▪ 図書館の利用率は高い。→文献をよく活用している。習慣になっている。</li> </ul>
プレゼンテーション能力	プレゼンテーション能力の向上
ライティング 全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ライティング</li> <li>▪ スタディスキルの授業</li> </ul>

表2 現在おこなっている初年次教育で効果がある内容(自由記述) 続き ( )内数字はコードの個数

初年次教育で効果がある内容	自由記載の例
	(代表的ものを抜粋 1つの文に複数の項目を含む場合には、該当箇所を太字下線で示した)
7. 大学で学ぶための思考方法を身につける(3)	
コミュニケーション能力 ロジカルシンキング・クリティカルシンキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 少人数制のグループ学習により、<u>コミュニケーション力</u>、協調性は<u>育成されている</u>。</li> <li>▪ ロジカルシンキング、クリティカルシンキング</li> </ul>
8. 高校までの受動的な学習から、能動的で自立的、自律的な学習態度への転換を図る(23)	
課題の明確化と共有、探究による問題解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 各教員が5～6名ずつの学生を担当するが教員の研究内容から文献を紹介し文献検索させている点、教員によっては関連施設の見学を入れている。</li> <li>▪ フィールドワーク、高齢者のディサービスまたは子ども館に行かせているが、早くから他者と接すること、また世代の違う対象と接することに、人の思いや考えのちがいにふれ、学びになっていると思う。</li> <li>▪ 学習成果のプレゼンテーションとディスカッションによって、主体的で対話的なアプローチ、成果の発信による課題の明確化と共有が進んだ。</li> </ul>
グループでの探究力 フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ グループ学習一ゼミ形式の授業による専門教育への導入役割。</li> <li>▪ フィールドワーク</li> </ul>
9. その他	
効果的な方法に関すること(4)	
学生と教員との学習目標・気づきの共有化	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 授業通信で学生がどのように授業で「気づき」を得たかについて、共有することで学生の成長を促すことができる。</li> </ul>
ルーブリックの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ルーブリック評価を導入していることは、学生が学習する目標の明確化につながり、教員もその評価に応じて指導できる。導入や途中でのフィードバックが重要であり、学生が自分の学びや学び方を振り返ることができるような介入を意図している。</li> </ul>
高い学生の満足度(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 学生の満足度はいずれも高い。(各講座では簡単な学生向けアンケートを実施し、その結果)</li> </ul>
全てに学習効果がある(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 全般的に学生に高評価であり、学習効果も高いものと考えられる。</li> </ul>
効果については検討が必要/まだわからない(6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 今後の追跡調査、次学年の状況等を参考にみていく。</li> <li>▪ 専門教育への影響はわからない。</li> <li>▪ 効果がある内容ということで評価していないので、よくわからない。</li> </ul>
効果の評価は困難(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ レポートの書き方や文献検索、ディスカッションやプレゼンテーション、発表レジメの作成などは、効果はすぐ表われるものではない。学習を進める中で徐々に身につけてゆくものとする。</li> <li>▪ 学習意欲が高まっているが、<u>効果を数値で測るのはむずかしい</u>。</li> <li>▪ この科目だけでは効果判定には不足である。</li> <li>▪ 生物・化学に関しては、それぞれの科目の成績評価を基に判断している。</li> </ul>